

5 市町村合併を求める小杉町民の会(仮称)

会長 倉橋 颯昌 殿

回 答 書

平成16年4月8日

小杉町長 土井 由三

皆さんのご主張はご主張として真摯に受けとめていますが、いま大事なものは町民の心が一つになることです。

郡内合併に向け町と議会が決め、周辺町村に共感をいただくことが必要な時期にこれとは異なる動きが起こればせつかくの話し合いの機運も中断してしまいます。

そのことを目的にしているならやむを得ませんが、結果として町に混乱を引き起こすことについては慎重であってほしい、と願っています。

以下、皆さんの質問について町が考えていることを明らかにします。

1 各地区・各種団体説明会について

ご存知のとおり、2月に実施した住民説明会は、町の三役そして議会からは議長、合併問題特別委員長はじめ多くの議員の皆さんに出席を頂き、これまでの合併協議会での協議内容・新市建設計画そして新市財政計画の作成状況などを説明し、住民の皆さんに意見を伺いました。

この説明会には延べ約1,200名余りの住民の皆さんに集まって頂き、たくさんの方々の質問・意見そして要望が述べられました。そのなかには5市町村を望む声、4町村を望む声、そして単独でいくべきという声も出されました。

各会場に出席された皆さんの意見は、しっかりと受けとめ、当日発言されなかった方々の意見も補足的にうかがってきました。一方、説明会に出席されなかった大勢の住民の意見も尊重しなければなりませんので、住民の代表である町議会議員の皆さんとも十分に意見の交換を重ねてきました。

その結果、議員の皆さんは、住民に「郡内合併」への根強い意見があること、これまでの合併協議の内容や経緯も踏まえ、さらには意見集約の直前に起きた不測の事態などを勘案して、これまでの協議会を白紙に戻すべきだとの意見が大勢を占めるに至りました。

過去の住民アンケート調査では、射水郡4町村での合併が過半数を上まわっていたこと、コンパクトで行政効率もよく魅力的なまちづくりが可能なことなども加え、行政のためではなく住民の幸せ・利益を最優先に考え熟慮を重ねた結果、射水郡内での合併に向け最後の努力をすることを決断しました。

そして、先の3月定例議会において議員の皆さんは、合併協議会からの離脱に同意・議決したものです。

なお、マスコミ各社の論評は報道の自由もありますので、批評は控えます。

2 町職員アンケート結果について

町職員アンケートは、合併についての職員の意思を確認したものです。小杉町情報公開及び個人情報保護に関する条例第6条第1項第4号は情報非開示の事例として「町と国又は他の地方公共団体その他の公共団体の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより率直な意見の交換若しくは意志決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に町民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え、若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの」と明記しています。

合併は相手があることであり、結婚にたとえれば結婚相手について家族会議を開き、いろいろ議論したことをまだまとまっていない段階であらうだと公にはしないものです。町職員アンケートはこの家族会議のやりとりと同種のものと考えています。現段階では前記条項に照らし開示を見合わせています。町はこれからも情報公開条例により住民の知る権利を保障し、公正で透明な町政の推進と町民による町政の参画を進め、「開かれた町政」を推し進めていきます。

3 合併協議会からの離脱理由について

平成15年2月7日に住民発議による射水広域圏5市町村での合併協議会設置の請求が行われるとともに、射水郡内合併を推進するグループの動きも

活発化しており、住民の総意を掌握するために同月16日に「小杉町が新湊市を含む射水広域圏での合併に向けた協議に入ること」についての住民投票を実施しました。投票の結果、賛成8,454票、反対7,984票と賛成が470票(2.8ポイント)上回ったことから、住民の意思を尊重し、議会の議決を経て合併協議会に参加しました。しかし同時に反対の意見も半数近くあることから慎重な姿勢で協議に臨んできました。

なお、合併協議会とは、合併を行おうとする市町村が、合併することの是非を含め、合併のための諸条件を協議し、決定していくための地方自治法上の協議会であり、すなわち合併協議会の設置イコール合併を行うこととはならないことをご存知のことかと思えます。

離脱理由は平成16年3月10日付けの「市町村合併についての小杉町の方針」のとおりです。

合併をするうえで市町村の配置分合の議決権を有する議員同士の信頼関係の醸成が極めて重要ですが、この2月18日、小杉町合併問題特別委員会における当町議員への発言について新湊市議会から書面で抗議と謝罪要求がありました。本来議会内での発言の自由を尊重すべき議会が他の議会に対し、抗議と謝罪要求をしたことは遺憾なことであり結果、町議会において新湊市議会への不信感が募り、信頼関係を基とする協議を続けることができないとの意見が大勢を占めたことから、離脱の決断をしました。

また、協議会において当町の特色でもある首長等・議員の倫理条例などの取扱い、事務事業のすり合わせや借金問題に係る議論など、十分な論議もないまま軽々に物事が処理されてきたことに不信感を募らせてきました。このことから小杉町の要望や主張がすべて受け入れられたかのようにみえるからといって、新市のまちづくりのなかで今まで培ってきた小杉町の施策が本当に生かされるのかどうか、多くの議員にわだかまりや疑問が残っています。

協議を通じて感じとった各議員らの認識は、この協議は合併したあとの市の姿を明確にするというよりは、合併にこぎつけるための問題処理に力が注がれてきた、というものです。

つまり、合併してしまえばどうにでもなる、といわんばかりの進め方に多くの議員が不信感を持った、ということです。

3月9日に住民の代表である町議会が協議会から離脱するという議案を賛成9、反対6で可決しました。投票に加わらなかった2人も郡内合併を主張しています。あわせて11人となることから全議員の65%にも達しており、重く受け止めなければなりません。自治会や婦人会などの要望も勘案しながら合併に向けて最後の努力を積み重ねていきますので、今しばらく静かに見守っていただきたいと思います。

市町村合併は行財政の効率性の面からも進めなければならない課題です。企業の合併とは異なり、各自治体には住民が生活を営んでいることから住民福祉の面も考慮する必要があり、単に効率性の面からのみ論じられるものではありません。

射水郡内は、歴史や文化、伝統をとともに育んできたつながりはもちろん、体育協会やPTA、婦人会など各種団体が郡単位で活動をしていることなどの住民の一体感や、生活圏の広がりなど、地域としてまとまりがあることから、いろいろな意見を出し合って行政に反映できる規模だと思っています。幸いにも射水郡内では重複する施設も少なく、また公共施設も整っていることから、合併特例債の活用も最小限に抑制することができ、コンパクトで魅力的なまちづくりが可能であると考えています。

広域圏合併の財政推計では、借入限度額に近い472億円の合併特例債を見込んでいます。合併特例債がいかにも有利な地方債（借入金）と言えども後世への負担を十分考慮し、真に必要な事業を選択して活用しなければなりません。

また、射水消防庁舎の合併推進債の活用については、小杉町は合併協議会から離脱しましたが、富山県は、他の4市町村が協議会を継続させていくとの意見に基づき合併重点支援地域をはずさないとしており、このことを前提に合併推進債を活用していくということになっています。

小杉町は郡内合併に向けて、合併についての最終的な議決権をもつ町議会とともに懸命に努力をしております。しかし、合併は押しついたり押しつけられたりするものではありませんので、それぞれの町村にあっても十分考え

ていただく時間が必要です。したがって先ほども言いましたように今しばらく静かに見守っていただきたいと思います。

各市町村との信頼関係・友好関係は続いておりますし、新湊市とは広域行政をしております。友好関係はこれまでどおりです。

4 住民投票について

先ほど述べたとおり当時は、射水広域圏合併を主張する団体と射水郡内合併を推進するグループの動きが活発化しており、住民の総意を掌握するために平成15年2月16日に住民投票を実施しました。フォーラムや住民投票のための公報で、射水広域圏合併を主張する側から「協議ぐらいには参加してもいいのではないか。合併の是非を含め、まず同じテーブルに着き議論すべきではないか」などの意見が出されました。投票の結果を受けて小杉町は合併に向けた協議に参加したものです。

今年の3月定例議会で合併協議会の枠組みを白紙に戻し、冷却期間を置くことを議決しました。その上で住民の根強い願いである「射水郡内合併」へ最後の努力をすることを確認しました。

小杉町は、今回の合併については明治や昭和の合併と違って、住民主体で決める合併だと一貫して主張してきました。この考えは今後も変えません。

住民投票については今回の決断の後の動きの中で、議会とも相談のうえ場合によっては再度実施することもありえます。

町では、県下で唯一、市町村合併についての住民投票条例を制定し、4月1日施行の「まちづくり基本条例」でもそのことは明記されております。住民本位で合併問題に臨む姿勢にいささかもゆるぎはありません。

合併は、町の将来にかかわる重要なことでありますが、今は射水郡内合併に向けて住民の心をひとつにすることが大事であり、もうしばらく冷静に見守っていただきたく、ご理解をお願いします。